

ボストン研修以来、念願のマルメ研修となりました。

今回自分自身で確かめたかったのは現地スウェーデンの保険制度を含めた歯科事情並びに社会情勢についてでした。

歯科関係者から聞くスウェーデンのイメージは IKEA やボルボのイメージと同じく、清潔でスマートな歯科事情で高福祉に支えられた綺麗な口腔内を持つバイキングの末裔達といった感じ。しかし一方でスウェーデン人の知人から聞く話しは情勢不安についてばかり。このギャップはどういう事なのか？

今回のお話があった時自身自身で確かめる絶好の機会と思い即座に参加を決めた次第です。

幸いな事にエリクソン先生とコーヒー飲みながら色々話しを、させてもらえる機会がありましたので現在のスウェーデンの歯科の置かれている問題について色々教えてもらえました。やはり予想通り移民問題の悪影響は歯科医療にも相当なダメージを与えているとの事でした。

またわざわざアメリカより宮本先生も参加して下さりアメリカの歯科医療とスウェーデンを比較してのお話やスピーチもこれからの日本についてどのような方向性が良いのかを考える良いアドバイスとなりました。

その他にもマルメ大学に留学している日本人歯科医師の先生方にも沢山のリアルなスウェーデンの歯科医療の実態を聞かせてもらえたりと多くの実りある研修となりました。

やはり研究にかけるエネルギーや予算は日本とは比べものにならない様です。歯科大学、衛生士学校においての学生教育においても大きくかけ離れており歯科衛生士においては卒業後すぐに現場で通用するレベルまできちんと教育するそうです。

一方、子供の歯科治療、メンテナンスは無料であり、成人に関しては自己責任の意味合いがあるので自己負担金比率はかなり高いのが意外でした。

出来高払い制度と、キャピテーションシステムの2つがあり、キャピテーションシステムの多くは公立歯科診療場であること。

素晴らしいシステムではあるものの行かない人も、数多くいて従来から痛くなれば歯科医院へ通う人も伝統的にいと何度か説明してくれました。

またその他にも個人開業医もいて、それぞれ患者が、良いと思う歯科医院に、行っている事も知りました。

この様な現実行ってみてはじめて知り得る事であります。

その他にも数多くの、知識や情報を知り得ることが出来た実りある研修でした。

今回の研修を通して我々オーラルフィジシャンは日本の歯科医療を社会情勢を踏まえどう変えていき、我々自身もどう歯科医療を行っていくのかを真剣に考える良い機会となりました。

加藤先生はじめ多くの関係者の方々には本当に感謝しております。

揺れ動くヨーロッパに、100人からの人間をアテンドして、研修を無事終える事は並大抵では無いはずで。

またこのような機会を与えてくださった熊谷先生にもこの場を借りてお礼申し上げます

ありがとうございました。